

# ミチの建築 -現状分析に基づくホスピスの提案-

場が連続して展開する空間に興味を抱いてきた。建築には、写真や映像では表現できない、実際に体験して初めて得られる経験の魅力が秘められているからである。  
 また、実際に自分の足で歩いて風景を感じ、自分の経験として風景を獲得する行為そのものは、時にとっても重要な行為となる。卒業する前の教室、引っ越しする前の自宅、取り壊し直前の建物などを見る時、我々は自然とその光景を目に焼き付けようとする。余命を宣告された人にとってはことさらである。  
 本計画は、柔かい光に包まれた、シークエンシャルな空間で、自らの居場所を選びながら生活を送る事ができる、ホスピスの提案である。

## ■対象計画地：高田馬場



〈計画対象地：高田馬場〉  
 東京都新宿区西早稲田2丁目17  
 JR/西部新宿線 高田馬場駅徒歩15分  
 副都心線西早稲田駅徒歩3分  
 ・敷地面積約2300平米  
 ・第二種中高層住居専用地域  
 ・第二種高度利用地区（20mまで）  
 ・建ぺい率70%  
 ・容積率約160%  
 ・第一種文教地区



駅前若者で賑わっている



駅前には大きな規模のビルが建ち並ぶ

計画対象地は高田馬場駅から徒歩15分程の住宅街の一角である。計画地周辺は住宅が広がり、とても静かな療養環境が確保できる。さらに、商業施設がすぐ側にあるので、そこへ出かけて自分の口にする食べ物や、身につける衣服を買ったり、映画を見るなどして、楽しむ事も可能である。療養する事と、人としての生活を送る事が両立する事が可能な場所であると言える。ホスピスは、外出は自由であるために、このような環境はホスピスにとって欠かせない事である。高田馬場は、静かに自分の時間を過ごす事も、街へかけて、リクリエーションを楽しむ事も可能であり、自らの居場所を選ぶことができる街である。

## ■ホスピス・緩和ケア病棟の見学

ホスピスで患者とその家族が送る生活と、医師や看護師が終末期の人に対する姿勢を、実際の体験として理解するために、東京都と神奈川県ホスピス計12件を見学した。

永寿病院	16床	東京都台東区東上野2-23-16
NTT東日本関東病院	28床	東京都品川区東五反田5-9-22
木村病院	13床	東京都大田区千鳥2-39-10
日本赤十字医療センター	17床	東京都渋谷区広尾4-1-22
東京厚生年金病院	18床	東京都新宿区津久井町5-1
救世軍ブース記念病院	20床	東京都杉並区和田1-40-5
東京衛生病院	20床	東京都杉並区天沼3-17-3
東京都立豊島病院	20床	東京都板橋区栄町33-1
桜町病院	20床	東京都小金井市桜町1-2-20
川崎市立井田病院	20床	神奈川県川崎市中原区井田2-27-1
神奈川県立がんセンター	17床	神奈川県旭区中尾1-1-2
ピースハウス病院	22床	神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

見学病院リスト



少し歩くと緑の多い公園がある



住宅街に入ると静かになる



食堂



屋上庭園



談話室



患者さんが制作した小物

## ■ホスピスに必要なもの

現在のホスピス



談話



休憩



移動

現在のホスピスでは、部屋毎に行動が規定されており、患者の基本的な居場所が病室にしかない事が見学を通して分かった。  
 本計画では、人が動線として通り過ぎるだけでなく、居場所として佇む事のできる空間である『ミチ』を用意する事で、患者の生活の質を高める事を目的としている。

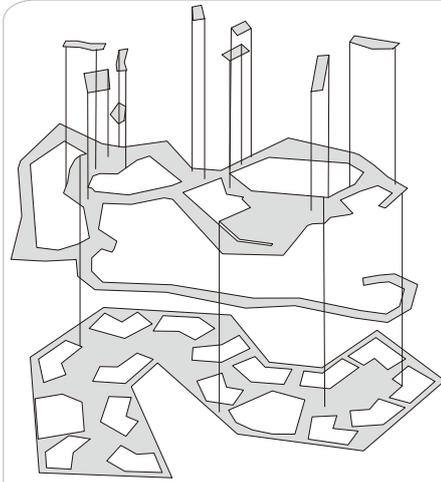
計画するホスピス



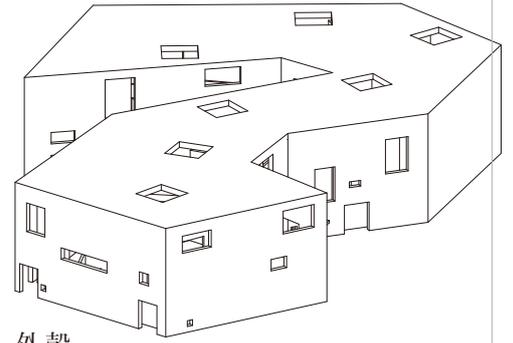
人が通り過ぎるだけでなく、居場所として佇むこともできる空間



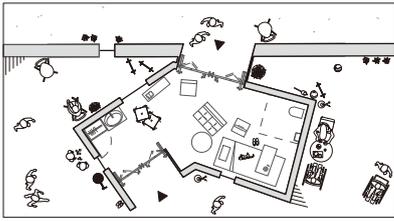
病室  
患者が寝起きする所



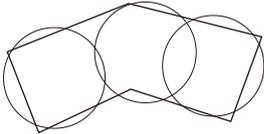
ミチ  
病室の周りに広がっている



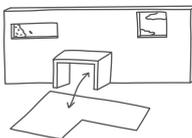
外殻  
病室とミチを覆っている



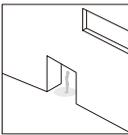
□病室（個室）は、入り口から場が展開していくために、例えば、玄関一居間一寝室の様に奥まる程プライベート性が高くなる形状とした。ワンルームの病室内でも複数の場ができる事で、自分の居場所を選ぶ事ができる。



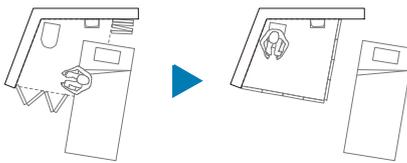
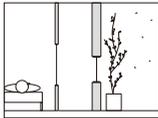
□それぞれの病室から直接外に出る事ができる。これにより、家族が24時間面会に訪れる事ができる。また、自分専用のアクセスがあることで、生活が自律的になる。



□部屋から外へ出られるアクセスは深さが約1000mmあるので、軒の役割を担う事ができる。これにより内部と外部の中間領域が生まれ、病室と外部だけでなく、もう一つの居場所が生まれる。



□元気なときも、寝たきりのときも、両方の時に風景を楽しむための開口を用意した。寝たきりの時に利用する開口は、ベッドの上からでも外を眺める事ができる。



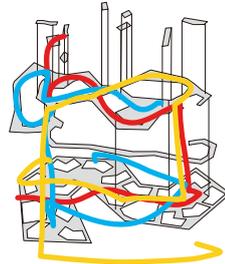
□がんが進行して体力が少なくなっても、トイレにだけは自分で行きたいと言う人は多い。車いすはもちろんのこと、ベッドに居ながらもトイレの側まで行く事ができればトイレは利用できるもので、トイレの間仕切りは全て解放できるものとした。

□視線が遮られたり、通ったりする事で、場の連続感や、独立感をつくり、期待感を生み出す。このような操作によって場所に変化が生まれる。

□同じミチの中に佇む所と通る所を作る事で、場所の選択性が広がり、生活を豊かにする。佇む所は、気軽に患者と家族等との関係を作るために、談話に使える小さな所や、食事やコンサートに使える広い所等がある。

□内部と外部を行き来するミチを作る事で外部にはテラスができ、内部の生活が外部に広がる。

□道行きにリズムを与えるために、空の見えるトップライトを配した。



3層に渡って広がるミチ。いくつかの経路を色の線で示した。

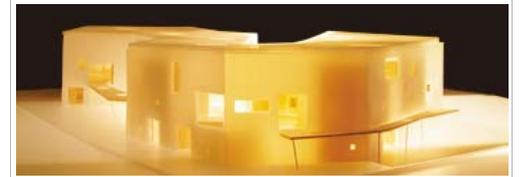


＜プロフィットガラスとテント幕の仕上げの壁＞  
光をぼんやり通し、明るさを確保する効果がある。



＜白く仕上げられたコンクリートの壁＞  
光を反射し、明るく見せる効果がある。

- ・素材を切り替えることで庭の領域を強調する
- ・外部へ光を反射し、庭を明るく演出する
- ・内部へ光を通し、内部に留まらせることで、明るさを確保する



このような外壁の操作により、病室のシルエットが浮かび上がる。患者の生活が病室の影を介して間接的にファサードになるように、病室一つひとつの単位を表現した。



三つの構成要素は、構造を別にし、物理的に距離を保ちながらも、複雑に関係を持っている。



±0mm 平面图

0 5 10 20 50m

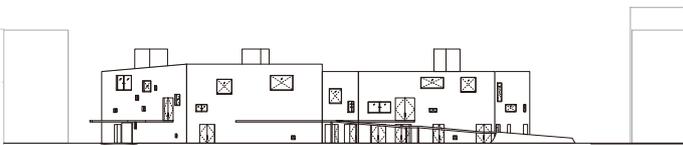


+6000mm 平面图

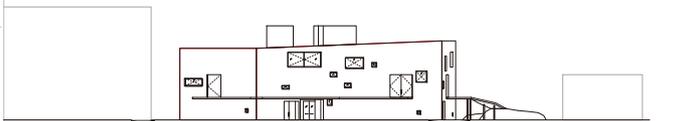


+3000mm 平面图

0 5 10 20 50m



西立面图



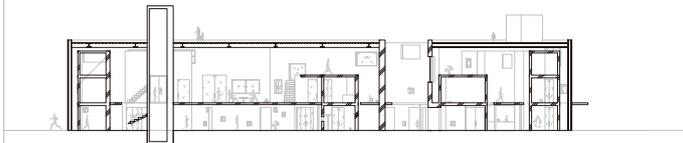
北立面图



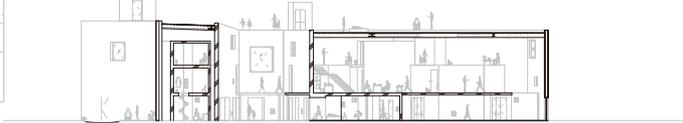
东立面图



南立面图



断面图A



断面图B

